

## 「自己の経験から学んだ修士論文の作成ポイント」

社会福祉学専攻 戸内 修太郎（平成 29 年度修了）

平成 29 年度修了生の戸内と申します。普段は山形市内の小規模法人においてデイサービスの管理業務や生活相談業務等に従事しています。

一般論として、大学院修士課程の門を叩いた方々の入学動機は様々あると思いますが、修士の学位取得に辿り着くためには、各大学院で研究科・専攻ごとに定めている「学位授与方針」等に掲げられた資質や能力を在学中に涵養することが必須条件となります。たとえば、本学通信制大学院総合福祉学研究科の社会福祉学専攻であれば、「社会福祉に関連する学問分野の諸問題を解決するための研究力や実践力を修得したと評価するに値する成果（修士論文）」を修める必要があるわけです。修士号の価値は、通学や通信といった課程の違いを問わず不変ですので、多忙を極めながらも向学心旺盛な社会人にとって、通信制大学院の存在は非常に魅力的に映ります。

しかしながら、通学制の大学院とは異なる教学上の特性として、通信制の大学院では、面接指導の機会を頼りにしながらも、基本的には独力で研究を進めていかなければなりません。研究時間が深夜や休日等に限られているだけでなく、通学制のように学友同士で研究テーマについて自由闊達に語らったり指導教員の研究室に入り浸ったりという機会には恵まれませんので、それ相応の覚悟をもって挑まなければ修了は覚束ないかもしれません。事実、「特別研究科目」以外の単位修得は比較的順調に進んでいるにもかかわらず、修士論文の作成で躓いてしまう場合も少なくないようです。特に、学士課程時代に卒業論文を作成した経験のない方は、一年次のなるべく早い段階で研究科目 5 科目の課題レポートを次々に提出されることを強くお勧めします。目安は 1 ヶ月に 1 科目 2 課題分のレポート提出です。それぐらいのスピード感を心がけないと、修士論文の作成段階で時間が足りなくなるおそれがあります。

そこで以下に、浅学の身で恐縮ではありますが、これから修士論文に挑まれる皆様へ向けて修論作成のポイントに関して私見を述べたいと思います。なお、私の修論はインタビューによる調査研究ですので、社会福祉学専攻に所属する方々を対象に、実証的研究を念頭におきながら箇条書的に列記することにします。冗長性を排するため常体になりますが、ご容赦ください。

①指導教員が決定する前に、入学以前に作成した研究計画書を見直し、再度研究テーマを見直す（この段階であれば、入学後に得た知見を踏まえて研究テーマそのものを変更することも可）。その際、テーマを絞り込む方向で推敲することになると思うが、問いに対する仮説設定と仮説に対する結果予測という一連のストーリーを修論の骨子としてスケッチし、そのスケッチを清書するに相応しい研究手法について実行可能性を念頭に吟味する。

- ②何事も骨組みが大事。修論においては「目次」がそれに該当する。前項で述べた修論のストーリーを目次として落とし込む。同時に、各章節の字数配分を行い、どの程度の分量の論文を作成するか決めておく気持ちが和らぐ。規定では図表換算を含めて最低 4 万字となっているが、まずは 6 万字から 8 万字ぐらいを目安として一気に書き、後から論文全体をブラッシングして引き締めるという方法もある。
- ③目次作成が終わったら、書けそうな部分から書いていく。序章の課題背景や研究目的、先行研究の整理、研究手法などは、質問紙調査やインタビュー調査を始める前から書き溜めておくことが可能であるし、論文本体に掲載する調査結果のフォーマット、たとえば調査対象の属性一覧や調査結果のクロス集計表等の雛形についても事前に作成しておくことができる。さらに先行研究を参照すれば、調査結果の予測範囲についてもある程度アタリを付けておくことが可能であり、また、終章についても仮のレベルで大まかに記述しておき、後日に調査結果に基づいて修正を加えれば良い(ただし、調査結果の如何によっては、ほぼ書き直しが必要な場合もありえる)。
- ④量的アプローチをメインの分析手法として採用する場合、統計分析のフリーソフトとして汎用性の高い「R」や「Python」を選択することも視野に入れたい。簡素なプログラミングで記述可能であり、それでいて高精度かつ説得力のある分析結果が得られる点が魅力。この機会に「Excel」以外の分析ツールを会得すると、大学院修了後に研究者や学術的实践家としてできることの範囲がかなり広がると思われる。
- ⑤質的アプローチにおいて、GTA や M-GTA を金科玉条の手法として採用する必然性はない。TAE 等それ以外の質的アプローチで分析してみるのも面白いし、社会福祉領域の学問の発展により寄与することになると思う。
- ⑥調査は遅くても 10 月中には終了するべきである。このスケジュールだと 11 月中にデータを整理・分析し、12 月から 1 月初頭にかけて清書することになるが、それでは本文の執筆期間が足りないと感じるのであれば、調査終了を 8 月や 9 月に前倒しするべきだろう。そうしなければ、おそらく提出期限まで間に合わない。
- ⑦インタビュー調査の場合であっても、質問紙調査で行うようなランダムサンプリング的発想を意識し、調査対象を自分の所属法人に限定する等せず、幅広い法人から小人数ずつ対象者を選定すると、より普遍性のある結果が得られやすいと思われる。例えば、厚労省の『介護サービス情報公表システム』などを利用して、調査可能な地域内の法人をランダムもしくは一定の基準に基づいて抽出し、「当たって砕けろ」の精神で電話依頼を行うといった方法も考えられる。テーマによっては門前払いされるケースも少なくないだ

ろうが、それはそれでそのテーマを追究することの難しさを肌で感じられると共に、それゆえの社会的・学術的必要性を再認識する機会になるのではないだろうか。

⑧インタビューの文字起こしは、たとえ深夜や早朝までかかったとしても記憶の鮮明な当日中に完了することが望ましい。逐語録には具体的な会話内容に加えて、その時の対象者の表情や身振り手振り、声の抑揚や間の置き方などを書き添えておくことが有益である。

⑨修論スケジュールの目安として、大学院側から修論の標準的進捗状況に合わせたレジユメの提出が段階的に求められるが、構想レジユメ、第1回中間レジユメ、第2回中間レジユメと回を追うにつれて、提出者の数が減っていく傾向にある。在籍期間は最長4年まで延長可能であるが、ストレートに修了される方に比べて留年される方の修了率は相対的に低い実態が各レジユメの推移から読み取れる。したがって、何が何でも2年間で修了する、または今年度で絶対に修了するのだという不退転の決意を持ち続けることが、修論を完成させるうえで極めて大切であると思う。

これは各レポート作成の際にも共通することですが、研究テーマを頭の片隅にでも良いので常に置いておくよう意識すると、思わぬひらめきや発想が得られる場合があります。本学校歌でも歌われている「思索の泉」を汲む機会というものは、普段の何気ない日常に眠っているのかもしれませんが、その眠りを呼び覚ますのは、やはり飽くなき探究心です。

仕事や家事など何足もの草鞋を履きながらの修論作成は非常に骨の折れる作業であると拝察いたしますが、最後まで諦めずに取り組み、無事に修了式を迎えられることをご祈念申し上げます。